

第5学年2組 家庭科学習指導案

日時 平成28年11月17日(木) 第3校時

場所 5年2組教室

指導者 教諭 田尻 美野

支援員 佐崎 朱

○研究テーマ 食から見つめ直す健やかな心と体
～学校・家庭・地域との連携を通じた自己管理能力の育成～

○目指す子どもの姿(高学年)
心身の健康のために、自らの生活を見つめ直し、よりよい生活習慣を築く子ども

1 題材名 「食べて元気! ご飯とみそ汁」(東京書籍)

2 題材について

(1) 題材のねらい

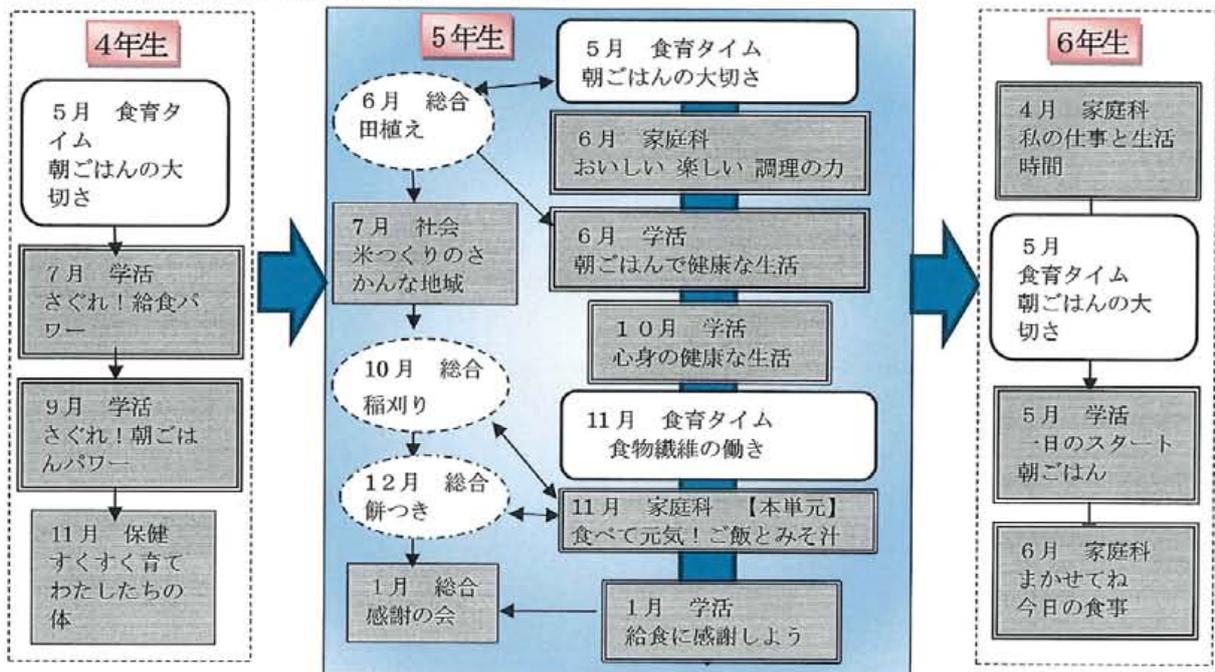
本題材は、学習指導要領の内容「B 日常の食事と調理の基礎」の中の「(1) 食事の役割」「ア 食事の役割と日常の食事の大切さ」と「(2) 栄養を考えた食事」「ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること」「イ 食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせると必要なことが分かること」と「(3) 調理の基礎」「エ 米飯及びみそ汁の調理ができること」を受けて設定している。

日本の食事は、「一汁二菜」という言葉に表れているようにバランスの整った食事をするのが望ましいとされているが、現代の子どもを取り巻く食生活は多様化を極め、朝食欠食、栄養の偏り、孤食などと様々な課題が挙げられる。また、児童はこれまでの学習から栄養バランスのよい朝食をとることが体や脳のスイッチを入れ、元気に過ごすことにつながるということは知っている。しかし、児童の朝食にみそ汁が用意されない日が多かったり、朝食欠食の児童がいたり朝食における課題は少なくない。

そこで、本単元を通して、バランスのよい食事の大切さや五大栄養素の働きを知り、日本の伝統的な日常食であるご飯とみそ汁の良さについて理解させたい。また、ご飯とみそ汁の基本的な調理の仕方を学習することで、地域で大切にされてきた食材や切り方の工夫やだしを取り方などの調理方法にも目を向けさせたい。さらに、みそ汁の実を工夫する活動を行い、家庭の課題や地域の食材などを考慮しながら栄養のバランスのとれた朝食を考え、調理していこうとする力を高めていきたい。

これらの活動を通して、児童自身が生活の主体者として食に関心をもち、健全な食生活について考え、自らの食生活を見つめ直すことができる実践的な態度が育まれるように指導していきたい。

(2) 系統(本題材に関する「食育ユニット」)



(3) 児童の実態 (男子 17 人、女子 12 人、計 29 人)

質問内容	回答の様子
①一人で調理をしたことがありますか。	ある 22人 ない 7人
②毎日朝ご飯を食べますか。	必ず毎日食べる 24人 食べない日もある 4人 食べない 1人
③食べない日もある理由は何ですか。	食欲がないから 2人 食べる時間がないから 1人 用意されていないから 1人 いつも食べないから 1人
④朝ご飯として食べているものは何ですか。(複数回答可)	ご飯かパン27人 みそ汁かスープ13人 野菜6人 卵肉魚豆類21人 果物8人 乳製品18人
⑤朝、どんな悩みがありますか。	食欲がない、食べるのに時間がかかる、ねむいなど

本学級の児童は明るく元気で、体を動かすことが大好きであるが、少々落ち着きに欠ける部分もある。家庭科に対してはとても意欲的に取り組み、特に調理実習を楽しみにしている。また、家庭で調理したり手伝いをしたりする児童が半数以上おり、家庭生活への関心の高さも伺えるが、手伝いをしない児童と一人で調理をしたことが無い児童は共通しており、個人差が見られる。

アンケートより、朝食は三品食べる児童が増えてきたが、主食と汁物が必ずあると答えた児童は少なく、自分でバランスの良い朝食を三品用意する力を高めていく必要があることが分かった。また、朝食をとらない児童がおり、その課題に目を向けた指導も必要である。

(4) 指導上の留意点

- ・栄養の特徴や食品の組み合わせに関心が持てるように、児童の身近な食事である給食の献立表を参考にしたり、栄養教諭に給食の献立を考えるときの工夫について話をしてもらったりする。
- ・全員が技能を確実に身に付けられるようにするために、一人一人が調理を体験できる場の工夫をする。
- ・ご飯の炊き方やだしの取り方については、条件を変えて比較させた調理をすることで、おいしく作る工夫や伝統食への関心と知識を高められるようにする。

【食に関する指導の観点について】

- ①食事の重要性…必要な栄養素を食事によってとっていることに気づき、食事の大切さが分かる。
- ②心身の健康 …様々な食品にはそれぞれ栄養的な特徴があり、それをふまえて自分の食生活を見つめ直し、よりよい食習慣を形成しようと努力する。
- ③食品を選択する能力…食品に含まれる栄養素やその働きを考え、みそ汁にあった食品を選択する。
- ④食文化…日常の食事は、地域の文化や産物と関連していることを知る。

【本校の研究の視点】・【食育授業の「さ」「し」「す」「せ」「そ」について

※「さ」…さがす・「し」調べる・「す」ステップアップ・「せ」生活にせまる・「そ」育てる

視点① 食への興味・関心を高め、正しい知識と望ましい食習慣を定着させる学習指導の工夫

- 「さ」…食育チェックや他教科の授業を通して、朝の過ごし方や朝食についての課題に気付くようにする。
 「さ」…児童が食べている給食に目を向けさせ、給食のみそ汁の工夫を手本としながら、栄養バランスのとれたみそ汁を考えさせる。
 「し」…朝の課題を解決するみそ汁にするために、五大栄養素をもつ地場産物に目を向けさせたり、「だし」や「みそ」、具の大きさや彩りなどを工夫させたりする。
 「す」…これまで学習してきた栄養についての知識に加え、だしの香りや彩り、食感について考えさせることで、食事を深める観点を増やし、日本の伝統的な食文化に目を向けさせる。

視点② 健やかな心と体づくりにつながる自己管理能力を高める日常指導の工夫

- 「し」…「食育タイム」と「食育ロード」、「食育チェックブック」を活用し、望ましい朝食への意識を高める。
 「す」…体のことを考えて進んで朝食を食べようとする意欲を高められるようにする。
 「せ」…家族の中の朝食や他の食への課題を踏まえたみそ汁を考えさせることで、望ましい朝食をとろうとする意識を高める。
 「そ」…本時において、複数のグループが課題を解決するみそ汁を考え、学級や校内放送などで発表することで家庭での実践力と他の児童への啓発力を高められるようにする。

視点③ 食や運動の課題を見つめ、変容を実感する調査・分析・啓発の工夫

- 「せ」…日常の食生活の課題と授業、さらに実践を結ぶ家庭科のワークシートや学級通信を作成し、自己の課題を明らかにし、それを改善する体験を積み重ねられるようにする。
 「そ」…新しく知った知識を「食育タイム」で活用し、食への視点や生活を見つめる力の深まりを実感させる。

視点④ 学校・家庭・地域が連携し、望ましい食習慣と体づくりへの関心を高める食育活動の推進

- 「そ」…「朝におすすめ！スペシャルみそ汁」を家庭で調理する体験を通して、学びを家庭に広める活動を設定する。保護者にも食べていただき、コメントをもらうことで、望ましい朝食をとろうとする家庭全体の意識を高める。

【人権が尊重される授業づくりの視点及びUD教育の視点】

- ・食事の内容調べなどで児童の家庭の食事を取り上げる時は、プライバシーに十分配慮する。
- ・全ての児童に分かりやすい学習となるように、実物やカードなどを使って方法を示し、学習内容を視覚化した板書を工夫する。

【道徳教育との関連】〔価値項目 C- (17) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〕

- ・日本の伝統的な食事や様々な郷土料理、あさぎり町の特産物のよさを知り、郷土を大切にしようとする態度を育てる。

3 題材の目標及び評価規準

- 日常とっている食事、特に日本の伝統的な日常食である米飯とみそ汁に関心を持ち、食事の役割を考へて食事を大切にしようとする。
- おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり、課題に合わせて自分なりに実の組み合わせを工夫したりしている。
- 安全や衛生に気を付けて、ご飯とみそ汁を調理することができる。
- 五大栄養素の種類と働きや栄養を考へて食事をとることの大切さや地域の伝統や気候風土に結びついた米料理やみそ料理があることを理解している。

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
日常とっている米飯とみそ汁に関心を持ち、食事の役割を考へて食事を大切にしようとしている。	栄養バランスがとれ、課題に合ったみそ汁の実の組み合わせを工夫している。	安全や衛生に気を付けて、おいしいご飯とみそ汁を調理することができる。	五大栄養素の種類と働き、栄養を考へて食事をとることの大切さや地域の伝統や気候風土にあった食文化について理解している。

4 題材の指導計画及び評価基準 (10時間扱い 本時は 10/10 時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	関	創	技	知	評価基準及び評価方法	食育の視点
1	1	毎日の食事を見つめる。	食事は主食・汁物・おかずを組み合わせていることに気付かせる。	○				関心・意欲・態度【観察・シート】 日常とっている食事に関心を持ち、食事の役割を考へて大切にしようとしている。	食べ方に興味・関心をもつ。 【食事の重要性】
2	2 3 4 5 6 7 8 9	栄養素の種類と働きを知る。 米やみそ、だしについて知り、ご飯とみそ汁の作り方を知る。 計画を立てる。 ご飯とみそ汁の調理をする。 調理の振り返りをし、米やみそを使った他の料理を知る。	五大栄養素の種類と働きについての知識を身に付けさせる。 米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解させる。 安全で衛生的な調理の仕方を身に付けさせる。 日本の伝統食であるみそや米への興味関心を高めさせる。				○ ○ ○ ○	知識・理解【シート】 五大栄養素の種類と働きについて関心を持ち、栄養を考へて食事をとることの大切さを理解している。 知識・理解【シート】 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁には、様々な調理過程があることを理解している。 関心・意欲・態度【観察】 日本の伝統食である米飯及びみそ汁に関心を持ち、計画し、調理しようとしている。 技能【観察】 米飯及びみそ汁の調理ができる。 知識・理解【シート】 地域に合った米飯を変化させた料理やみそがあることを理解している。	五大栄養素について知り、体内での栄養素の働きが分かる。 【心身の健康】 食品の栄養素をふまへ、簡単なみそ汁の調理をする。 【心身の健康】 地域の伝統や気候風土と深く結びつき、多様な食文化があることを知る。 【食文化】
3	10 (本時)	学習を生かして自分なりに工夫したみそ汁を考へる。	自分で考へたことを生活の中で実践しようとする意欲を高めさせる。		○			創意工夫【観察・シート】 栄養のバランスを考へ、地域食材を生かし、課題に合った実の組み合わせを工夫できる。	食品の栄養素やその働きを考へ、適切な選択をする。 【食品選択の能力】

5 本時の学習

- (1) 目標
 栄養のバランスを考え、地域の食材を生かし、朝の課題を解決できるみそ汁の実の組み合わせを一人で工夫することができる。【創意工夫】
- (2) 食に関する指導内容
 食生活を見つめ直し、食品の栄養素やその働きを考えて、課題にあった適切な食品を選択する。【食品選択の能力】
- (3) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問と指示(T) 児童の反応(◇)	指導上の留意点及び評価	準備物
つかむ	2	1 前時までを振り返る。	Tこれまでの学習を生かして、自分の家の朝の課題をクリアできるみそ汁を考えてもらいます。	・本時までに「旬」「地産地消」について、他教科や食育タイムで学習しておく。 ・自分だけではなく、家族全体の課題を一つ見つけておく。	これまでの学習を振り返る掲示物
		2 本時のめあてを知る。	朝におすすめ！スペシャルみそ汁を考えよう。		
考える	15	3 課題に合ったスペシャルみそ汁を考える。	Tスペシャルってどんなみそ汁のことだろう。 ◇栄養がとれる。 ◇工夫がある。 Tスペシャルの条件はこの3つです。	・これまでの学習を振り返る掲示物を使って、みそ汁を作るときの工夫を確認できるようにする。 ・例示するみそ汁は、栄養のバランスがとれておらず、課題克服の工夫がないものにする。 だし：にぼし みそ：麦みそ 実：じゃがいも、そうめん、とうふ	ワークシート 掲示用ワークシート
		【スペシャルの条件】 ①ご飯との栄養バランスを考えること ②あさぎり産の食材を入れること ③課題を解決する工夫があること	Tこのみそ汁を「目がさめない」という課題を解決するスペシャルみそ汁にしてください。どんな工夫をして、どんな実にしめますか。 ◇辛味の工夫をします。実はかいわれだいこん、あさぎり産の油揚げとかぼちゃ、そしてわかめを入れるとスペシャルみそ汁になります。	◎これまでの学習を振り返る掲示物を使って、みそ汁を作るときの工夫を確認できるようにする。 ◎朝の課題を解決するための工夫（彩り、食感、香り、味）を課題に応じて選ぶことが大切だということに気付かせる。	
		【考える約束】 ①工夫は一つ ②実は3～5個（菜味はそのうち2個まで） ③みそ、だし、実の工夫	T栄養のバランス、新鮮で栄養満点の地場産物、五感に与える工夫などを考えるとスペシャルみそ汁になるね。 T黒板のスペシャルみそ汁を参考にして、自分の課題を解決するスペシャルみそ汁を考えよう。 ◇家族の課題は、目が覚めないことなので、食感の工夫をします。実は噛み応えのあるにんじん、しめじ、ごぼうとキャベツを入れます。	◎工夫だけでなく、栄養のバランスと地産地消を必ず入れることを確認する。	
		【言語活動】（設定の意図） 朝の課題を解決するために、ご飯との栄養のバランスを大切に、条件に合わせてみそ汁の実を吟味することができる。	Tできた人から友達のスペシャルみそ汁にアドバイスをしてみよう。 ◇キャベツをレンコンに変えるともっと噛み応えが出るよ。	◆生活を創意工夫する能力 B基準 栄養のバランスがとれて地産地消をふまえたみそ汁の実の組み合わせを一人で考えることができる。（観察・ワークシート） A基準 栄養のバランスと地産地消をふまえ、さらに朝の課題解決のためのみそ汁の実の組み合わせを考えることができる。（観察・ワークシート） （B基準に達していない児童への手立て） どの地域の食材を選ぶと栄養バランスのとれたみそ汁になるかを考えるように促す。 能動型学習（ポイント） ◎一人一人の課題にあったみそ汁を考え、後に友達のアドバイスの時間を確保することで、みそ汁の工夫についての理解をさらに深められるようにする。	
深める	3	4 スペシャルみそ汁にするポイントの確認をする。	T栄養のバランス、新鮮で栄養満点の地場産物、五感に与える工夫などを考えるとスペシャルみそ汁になるね。	◎「生活を創意工夫する能力」 B基準 栄養のバランスがとれて地産地消をふまえたみそ汁の実の組み合わせを一人で考えることができる。（観察・ワークシート）	ワークシート 掲示用ワークシート
		5 家の課題をクリアできるスペシャルみそ汁を一人で考える。	T黒板のスペシャルみそ汁を参考にして、自分の課題を解決するスペシャルみそ汁を考えよう。 ◇家族の課題は、目が覚めないことなので、食感の工夫をします。実は噛み応えのあるにんじん、しめじ、ごぼうとキャベツを入れます。	◎「生活を創意工夫する能力」 A基準 栄養のバランスと地産地消をふまえ、さらに朝の課題解決のためのみそ汁の実の組み合わせを考えることができる。（観察・ワークシート） （B基準に達していない児童への手立て） どの地域の食材を選ぶと栄養バランスのとれたみそ汁になるかを考えるように促す。	
広げる	10	6 友達のスペシャルみそ汁にアドバイスをしよう。	Tできた人から友達のスペシャルみそ汁にアドバイスをしてみよう。 ◇キャベツをレンコンに変えるともっと噛み応えが出るよ。	◎一人一人の課題にあったみそ汁を考え、後に友達のアドバイスの時間を確保することで、みそ汁の工夫についての理解をさらに深められるようにする。	ワークシート 掲示用ワークシート
		7	【言語活動】（設定の意図） 朝の課題を解決するために、ご飯との栄養のバランスを大切に、条件に合わせてみそ汁の実を吟味することができる。	◎一人一人の課題にあったみそ汁を考え、後に友達のアドバイスの時間を確保することで、みそ汁の工夫についての理解をさらに深められるようにする。	
振り返る	8	7 これまでの授業を振り返り、これからの生活に生かす視点をまとめる。	Tこれまでの学習の中からこれからの生活に生かしたいことを書きましよう。 Tこれまで学んだ多くのことを生かし、料理を作っていきます。	・児童の言葉を使って、みそ汁を含む料理作りの視点（栄養のバランス、工夫点、食べる人の好み、料理手順等）を生かしてこれから実践していくことをまとめる。	

第5学年 家庭科 「食べて元気！ご飯とみそ汁」授業の様子

■食育授業の「さ」…さがす

事前学習として、学級活動において自分自身の生活における課題を見つける活動を行った。朝食に3品食べるようにはなっただけで、「嘔む回数が少ない」「食欲がなく、少ししか食べることができない」などの実態を明らかにすることができた。また、「起きてから家を出るまでの時間が短いので、早く食べられるような朝ごはんの工夫が必要だ」と答える児童もいた。そこで、朝食パワーを体に取り込んで学校に登校するためにも、朝食を工夫していこうと家庭科につながげた。

■食育授業の「し」…調べる・知る

全員が共通して食べる給食を教材として、栄養のバランスや食事を作るときの工夫を学習した。一食で栄養のバランスや複数の工夫が隠されている給食を参考に食事を作っていくと理想の食事になることを知ることができた。

■食育授業の「す」…ステップアップ

本時で「朝におすすめ！スペシャルみそ汁を考えよう」という学習課題を設定し、自分の生活の課題にせまる工夫を取り入れたみそ汁を考えた。まず、これまでに学習した工夫や栄養などの知識を使って、教師が考えたみそ汁を課題解決できるみそ汁に修正する活動をグループで行った。「目が覚めない」という課題に対し、辛さの工夫や食感の工夫を行い、地場産物である「ゆずごしょう」を入れたり、噛み応えのある「こんにゃく」や「ごぼう」を実に入れたりと趣向を凝らしたみそ汁を考えることができた。

■食育授業の「せ」…生活にせまる

次に、「さ」段階で考えていた朝の課題を解決するスペシャルみそ汁を自分で考えた。朝の課題を解決する工夫をするとともに自分や家族の好みやあさぎり産の食材を生かし、みそ汁の実の組み合わせを考えた。その後、友達に「課題は克服できているけど、彩りを足すともっといいと思うよ。」などのアドバイスをもらい、更に工夫を重ねていた。

■食育授業の「そ」…育てる

授業後、自ら考えたみそ汁を家庭で調理するという課題を出した。家族に「おいしい」と言ってもらえたことに喜びを感じていた。また、家庭からの「普段の朝食は具が少ないので、子どもの考えたみそ汁は栄養もあり、彩りもよかったので参考にしていきます。」などの意見があり、家庭への啓発としても効果的だった。

<成果 (○) 及び課題 (▲) >

- 栄養に目を向けるようになり、家庭での食生活をより豊かにしようとする意識が高まった。また、料理作りのお手伝いをする機会が増えた。
- ▲ 工夫に使う食材の種類が少なかったため、似たようなみそ汁になった子どももいた。食材調べや給食の食材にもっと興味を持たせる指導が必要だった。



す【グループで話し合う】

人参を加えると彩りがもっとよくなると思うよ。



す【アドバイスし合う】

(6) 第6学年 外国語活動「Let's go to Italy!」

食育関連授業…Ⅲ型

第6学年1組 外国語活動学習指導案

日 時 平成28年11月17日(木) 第2校時
 場 所 6年1組教室
 指導者 教 諭 鎌田 真奈美 (T1)
 ALT デパーマー・ケイトリン (T2)
 支援員 佐崎 朱

○研究テーマ **食から見つめ直す健やかな心と体**
 ～学校・家庭・地域の連携を通じた自己管理能力の育成～

○目指す子どもの姿 (高学年)
 心身の健康のために、自らの生活を見つめ直し、よりよい食生活習慣を築く子ども

1 単元名「LESSON5 Let's go to Italy. 友だちを旅行にさそおう」(Hi, friends!2 文部科学省)

2 単元について

(1) 単元のねらい

本単元は、学習指導要領に示されている外国語活動の内容2(2)「日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。」を受けて設定したものである。

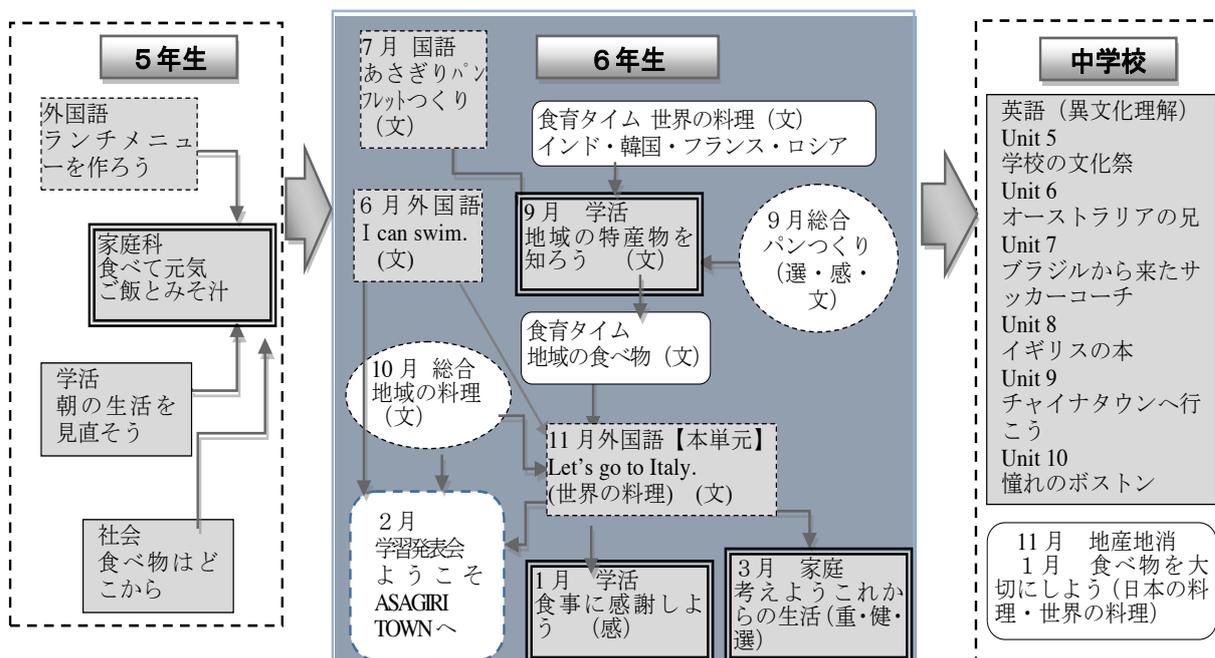
子どもたちは、5年生の単元「LESSON9 What would you like? ランチメニューを作ろう」において、なじみのある洋食の英語での言い方や世界の給食について学んできている。また、6年生までに給食で様々な国の料理を口にしており、その経験と本単元の活動をつなげることもできる。

本単元では、“Where do you want to go?” “I want to go to ~.”の表現を使う活動を通して、英語圏だけでなく世界の様々な国々に目を向け、自然や建造物、食事など多様な文化に興味をもたせ、日本との違いに気づかせることをねらいとしている。本単元で、自分が行きたい国について調べたり、友達の発表を聞いたりする中で、世界の人々が様々な生活をしていることに気付く、自分たちが住む日本の文化についても改めて見直すことができるだろう。

世界の文化を理解する手立ての一つとして、その国の料理を入れることで、給食や総合的な学習の時間で調べた日本や地域の料理とつなげ、その違いや良さに気づくこともできる。

「自分が調べた情報を、英語を使って伝えたい」「友達の発表を聞いて行きたい国を探したい」という双方の思いが、英語に親しみ、お互いのコミュニケーション能力を高めることにつながると思われる。

(2) 系統 (本単元に関する「食育ユニット」)



(3) 児童の実態 (男子11人、女子19人、計30人)

質問内容	回答の様子
① 外国語活動の授業は好きですか。	とても好き16人 好き14人 あまり好きではない0人 嫌い0人
② 外国語を話すことは好きですか。	とても好き15人 好き10人 あまり好きではない5人 嫌い0人
③ あなたは、外国の何を知りたいですか。	料理10人 名所8人 文化7人 絶景 みやげ 暮らし 言葉 国旗 建物
④ 世界に伝えたい日本の食文化は何ですか。	和食17人 箸の文化9人 安全5人 地産地消5人 おいしさ 新鮮さ
⑤ あなたは、あさぎりの何を外国の人に教えたいですか。	自然 おいしい食べ物 お店 観光 名所 特産物 土産 伝統 優しさ 人のつながり あいさつ

本学級は、するべきことはきちんとやらなければならないという規範意識の高い児童が多くいるため、落ち着いて学習する雰囲気を作ることができる。外国語活動でも、楽しんで声を出す場面と静かに集中する場面の切り替えはよくできる。しかし、恥ずかしい気持ちや正しい英語を話さなければいけないという思いが強く、積極的になれない児童もいる。そのため、正しい英語を使うことよりも、伝えたいという思いや分かりたいという思いが大切だということを、様々な活動で楽しく取り組むことによって感じ取らせることが必要である。

アンケートの結果から、世界の文化を知る手立てとして、「料理」と答える児童が多かった。それは、5年生での外国語活動や給食時の食育タイムなどで、世界の食事に触れているからだと思われる。また、日本の食文化や地域の食材についても、家庭科や総合的な学習などで学んできていて、日本の食文化の良さも理解しているようである。

本単元の「友達を旅行に誘う」「行きたいところを探す」という活動では、5年生時や給食時、総合的な学習の時間に学んだことを生かしながら、改めて、世界の食文化や日本の食文化を見つめ直す機会になると考える。また、そのことで、コミュニケーションの目的意識が高まり、楽しんで英語を使い、英語に慣れ親しむことにつながるであろう。

(4) 指導上の留意点

- ・全員が安心して発表できるように、英語の表現に慣れ親しむ時間を十分に確保しておく。
- ・コミュニケーションを図るためのゴールデンルール (smile, eye contact, clear voice, gesture, reaction) を1時間ごとのねらいを考慮して示し、相手意識を持たせるようにする。
- ・児童が英語表現を使いやすいように、学習環境や場面設定、ワークシートの工夫を行い、児童が自ら進んで英語を用いたコミュニケーションを図ることができるようにする。

【食に関する指導の重点について】

- ① 食文化…世界の料理を知ることにより、外国の食文化への関心を高め、日本との違いや良さに気付く。

【本校の研究の視点】・【食育授業の「さ」「し」「す」「せ」「そ】について

※「さ」・さがす・「し」調べる・「す」ステップアップ・「せ」生活にせまる・「そ」育てる

視点① 食への興味・関心を高め、正しい知識と望ましい食習慣を定着させる学習指導の工夫

「さ」…食への興味関心を高めるために、本時で発表する行きたい国の紹介文にその国の有名な食事を入れ、その食事のクイズを今まで学習した英語を使って出し合うようにする。

「し」…違う国を調べた4人グループを作り、自分と違う国の料理を知る機会を作る。

視点② 健やかな心と体づくりにつながる自己管理能力を高める日常指導の工夫

「す」…日本地図や世界地図に、総合的な学習の時間で調べた地域の食べ物や給食で出た郷土料理、世界の料理を示し、授業や「食育タイム」など様々な機会に活用することで、子どもたちの食生活を豊かにし、子どもたち自身、食べるのが楽しみになるようにする。

視点③ 食や運動の課題を見つめ、変容を実感する調査・分析・啓発の工夫

「せ」…本単元をきっかけに、献立表やくまさんだより、食育だよりなどで、日本の伝統食や地域の産物、世界の料理などに目を向け、食を通して日本や世界の文化の違いや良さに気付くことができるようにする。

視点④ 学校・家庭・地域が連携し、望ましい食習慣と体づくりへの関心を高める食育活動の推進

「そ」…日本の伝統食や地域の産物、世界の料理など、食について学習したことを学習発表会で発表し、他学年や保護者、地域の方に広げる。

【人権が尊重される授業づくりの視点及びUD教育の視点】

- ・行きたい国について、音声だけでなく絵や写真を見せながら紹介することによって、視覚的支援を行う。

【道徳教育との関連】〔価値項目C-18〕国際社会・国際親善

世界の様々な生活様式や食文化を知ること、世界には多様な生き方があることに気付き、互いに尊重し合う心をもつ。

3 単元の目標及び評価規準

- 自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。
- 行きたい国について尋ねたり、話したりする表現に慣れ親しむ。
- 世界には様々な人たちが多様な生活をしていることに気づく。

(評価の観点)

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
自分の思いがはっきり伝わるように、おすすめの国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとしている。	行きたい国やその理由を表す表現、尋ねる表現に慣れ親しんでいる。	世界の自然や建造物、料理について知り、その国の文化や日本との違いに気付いている。

4 単元の指導計画及び評価基準 (4時間扱い 本時は4/4時間)

時	学習活動	指導上の留意点	コ	慣	気	評価の観点及び評価方法	食育の視点
1	1 国旗クイズをする。 2 世界の国々の名前を英語で言う。 3 カードタッチゲームをする。	国旗にはそれぞれに込められた意味があり、国旗を大切にする気持ちを持たせる。 英語での国名を知らせ、国名の英語の言い方に慣れ親しませる。	◎			<u>コミュニケーション①</u> 【観察・シート】 世界の国々の国旗を知り、いろいろな国について知ったり調べたり伝えようとしている。 <u>言語・文化①</u> 【観察・シート】 国旗の意味を知り、世界の国々も自国のように大切にしようとしている。	
Let's go to~. America Brazil India France Japan China Australia Egypt Spain Greece Italy							
2	1 「～に行きたい。」を表す英語を知る。 2 What country?クイズをする。 3 ビンゴゲームをする。	“I want to go to ~.”という表現を知らせ、言い方に慣れ親しませる。 世界遺産や観光名所、有名な料理の写真を見せ、コミュニケーション活動への意欲を高める。 自分の行きたいと思う国を決めさせ、“I want to go to ~.”の表現に慣れ親しませる。			○	<u>慣れ親しみ①</u> 【観察】 行きたい国を尋ねる英語の表現を知り、慣れ親しもうとしている。	世界の料理を知ることにより、外国の食文化への関心を高め、日本との違いや良さに気付く。 【食文化】
Let's go to~. Where do you want to go? I want to go to~.							
3	1 stereo game をする。 2 Let's listen 2 3 紹介する国の内容を決める。	“Where do you want to go?”の表現に慣れ親しませる。 行きたい国を紹介する言い方を知らせる。 その国の建物や自然、料理など、紹介の内容を決めさせる。			○	<u>慣れ親しみ②</u> 【観察】 行きたい国や見たいもの、食べたいものについての英語の表現に慣れ親しみ、意欲的に活動している。	世界の料理を知ることにより、外国の食文化への関心を高め、日本との違いや良さに気付く。 【食文化】
Let's go to~. Where do you want to go? I want to go to~. I want to see~. I want to eat~. You can~.							
4 本 時 4 / 4	1 チャンツをする。 2 行きたい国を紹介する。(ショーアンドテル)	紹介するときを使う表現に慣れ親しませる。 行きたい国を紹介したり聞いたりして、世界の文化について興味関心を持たせる。			○	<u>コミュニケーション②</u> 【観察・シート】 自分が行きたい国について話したり、友達の話を聞いたりするなど積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	世界の料理を知ることにより、外国の食文化への関心を高め、日本との違いや良さに気付く。 【食文化】
Let's go to~. Where do you want to go? I want to go to~. I want to see~. I want to eat~. You can~.							

5 本時の学習

(1) 目標 自分が行きたい国について話したり、友達の話の聞いたりして積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。【コミュニケーションの関心・意欲・態度】

(2) 食に関する指導内容

世界の料理を知ることにより、外国の食文化への関心を高め、日本との違いや良さに気付く。
【食文化】

(3) 展開

時間	学習活動	主な発問・指示(T1)ILT(T2)ALT 児童の反応(◇)	指導上の留意点	準備物
つかむ 3分	1 Hello time をする。 2 Communication Time をする。 3 本時のめあてを知る。	T1/2: Hello, How are you? How is the weather? What time is it? T1/2: Today's topic is "What food do you like?" T1/2: Japanese food, O.K. 「You は何しに外国へ」発表会をしよう	・元気よくあいさつをし、楽しい雰囲気を作る。 ・友達と自由に交流することで、体と心をほぐし、後の発表活動をしやすくする。	
考える 2分	4 チャンツをする。	T1: Let's Chant.	・本時で使う表現をリズムに乗って言わせ、楽しい雰囲気を作る。 ・ Where do you want to go? I want to go to ~. の表現に慣れさせる。	リズムマシン 国カード
5分	5 T1 と T2 のスキットを聞き、発表会の進め方を知る。	T1 「You は何しに外国へ」発表会をしましょう。 T1: Please look at us. T1: Where do you want to go? T2: I want to go to ~. I want to see ~. I want to eat this. ※Food クイズ (材料、味、形など) T1: It's ○○. I don't know. T2: That's right! / O.K! / Good. / No, sorry. / Nice challenge! I want to eat ~. You can ~. Let's go to ~.	徹底指導(ポイント) ◎児童が次の活動での表現の仕方をつかめるように、児童のプレゼンと同じ表現でALTも行きたい国について紹介したりクイズを出したりする。 ・ALTのネイティブな発音に慣れさせる。 ・聞く方は、リアクションの手本を見せる。 ・コミュニケーションを図るための、ゴールデンルールをおさえる。	プレゼンカード5枚 地図 国旗 写真 クイズ
深める 20分	6 行きたい国を紹介する。(ショーアンドテル) 4分×4 【言語活動】(設定の意図) 発表会を設定し、自分の行きたい国を紹介する機会と友達の発表をリアクションしながら聞く機会を設けることによって、積極的にコミュニケーションを図れるようにする。	T1: 「You は何しに外国へ」発表会 Let's start. ◇聞く人 Where do you want to go? ◇発表者 I want to go to ~. I want to see ~. I want to eat this. ※Food クイズ (材料、味、形など) I want to eat ~. You can eat ~. Let's go to ~.	能動型学習(ポイント) ◎積極的にコミュニケーションを図れるように、違う国の4人のグループにする。 ・英語での紹介でもイメージしやすいように、地図や国旗、絵や写真を使用する。 ・食文化に関する興味関心を高めるために、料理のクイズを出させる。 ・聞く方は、リアクションをするように促す。	ワークシート
10分	7 発表会を終えて、行きたくなった国を友達に伝える。 8 友達のプレゼンを聞く。	T1: 行きたくなった国を3人の友達に伝えましょう。 ◇ Where do you want to go? I want to go to/see/eat ~ T2: Where do you want to go? ◇ I want to go to ~.	・ALTとの会話をすることでネイティブな発音に慣れる。 ・給食や食育タイム等で学習した世界の料理や日本の料理に目を向けさせ、英文に置き換えることで、世界と日本の食文化の違いに気付くきっかけを作る	世界地図 (文部省食育教材P27) 給食写真
振り返る 5分	9 ふり返しシートを書く。	T1: Please write to ふり返しシート。 ◇ジェスチャーをつけて話してくれたのでよくわかった。 ◇スペインではカタツムリを食べることを知ってびっくりした。	〈評価に達していない児童への手立て〉 一緒にリアクションを行い、安心してコミュニケーションがとれるようにする。 ・3つの観点でふり返しを書かせ、積極的なコミュニケーションの成功例や異文化に対する気付きを発表させる。	ふり返しシート
		評価 ◆コミュニケーションへの関心・意欲・態度 自分が行きたい国について話したり、友達の話の聞いたりするなど積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。 【観察・ふり返しシート】		

第6学年 外国語活動 「Let's go to Italy!」授業の様子

■食育授業の「さ」…さがす

日頃の食育タイムで給食に出た世界の料理について話をしたり、食材の原産国を紹介したりした。文部科学省の「楽しい食事つながる食育」食育教材を活用し、世界地図に給食の写真とメニューを掲示するようにし、日頃から日本の食事だけでなく世界の食文化に触れられるようにした。同時に、総合的な学習の時間で「地域の食文化」について調べ、身近な食文化にも理解を深めるようにした。外国語活動においては、自分が行きたい国についての名所や料理を本やインターネット等で調べさせ、日本の食文化や日頃口にしている世界の料理、給食で出てきた世界の料理などと比較できるようにした。

■食育授業の「し」…調べる・知る

これまで蓄積した食に関する知識と今回の自分が行きたい国の料理を比べさせ、「料理クイズ」として出させることによって、知識の活用機会となり、より幅広く世界の食文化に対する理解が深まった。クイズの中に、「給食で食べたことがある」や「食材の味」、「栄養」など、これまでに得た食に関する知識をヒントに出している姿が見られた。

■食育授業の「す」…ステップアップ

本時では、違う国を調べた4人グループでshow&tellを行い、自分が食べたいと思った料理を相手に共感してもらうために、クイズに出したり、ヒントを出したり、情報を付け加えたりした。聞く側は、自分が調べた料理と比べたり、「自分も食べたい」「おいしそう」「好きだ」と感想を英語で述べあったりした。その後、自分が行きたくなった国についての理由の一つに「～を食べたい」と言わせることによって、児童に旅行の目的意識と食に関する主体性を持たせることができた。

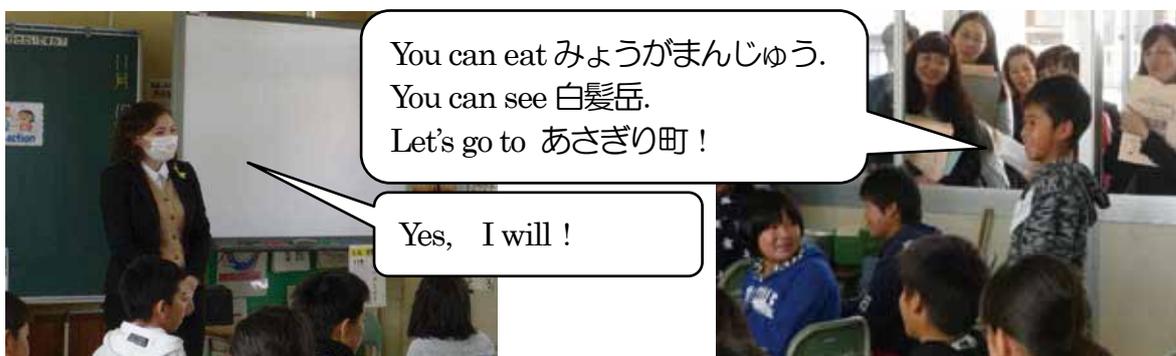


す【食べたいものを紹介する】

■食育授業の「せ」…生活にせまる

さらに、自分たちが今まで調べた日本各地の料理について、世界の料理で使った英語表現で紹介することにチャレンジさせることによって、世界の料理と日本の料理を比べるきっかけとなった。

また、食育タイムなどで知った地域の郷土料理を外国の人をあさぎり町に誘う活動に入れたことによって、自分の住む町の食文化の良さを再確認することができた。



You can eat みょうがまんじゅう.
You can see 白髪岳.
Let's go to あさぎり町!

Yes, I will!

せ【郷土料理であさぎり町に誘う児童】

■食育授業の「そ」…育てる

授業後、6年生が調べた世界の料理、日本の料理、郷土の料理は、食育ロードに掲示し、全校児童に広げた。

また、献立を見る際に郷土の料理や世界の料理に目を向ける児童が増えた。給食の際にも、クイズに「どこの国の料理でしょう」と出すなど、食文化の広がりが見られた。

<成果 (○) 及び課題 (▲) >

- 日頃から培ってきた食に関する知識を生かす機会となって、児童も喜んで活動した。日本の食文化と世界の食文化それぞれに調べていたことを本時でつなげることができた。なにより、子どもたち自身が給食や食べることを楽しみにするようになった。
- ▲ 今回学習したことを、家庭に生かすことがまだできていないので、授業参観や学習発表会等で保護者や地域に発信することに取り組む必要がある。

<ワークシート・教材・教具・掲示物など>



本時の板書



【文科省「食育教材」活用P27】

児童のコメント

- 知っている国でもいろいろな料理があることに気が付きました。
- ポーランドの国に紫のスープがあることに驚きました。
- 国によって味や食べ物が違ってくことを知りました。
- いろんな国の料理を知って、行きたい気持ちが大きくなった。
- 国によってサボテンを食べたり、羊を食べたりと日本と違うものを食べていることに驚きました。一度食べてみたいです。

食に関する活用の場面

- communication time で好きな食べ物を聞く。
- 食べたい世界の料理を発表する。
- 料理クイズを行い、食の知識を活用してヒントを出す。
- 今まで食べた給食と関連付ける。
- 使用する英語の文章表現に、総合的な学習の時間に調べた日本各地の食べ物を入れる。
- あさぎり町の郷土料理を使って、外国の人を誘う。

「You は、何しに外国へ 発表会しよう」
 名前 ()

※自分が紹介する国

※友だちから聞いた国 (memo)

国の名前 アメリカ	国の名前 スウェーデン	国の名前 ニュージーランド
料理 ハンバーガー ピザ アイス	料理 スウェーデン料理 パン	料理 ラム

※自分が行きたい国を調べよう！

※ふりかえり
 今日のコミュニケーションは、どうだったですか？
 いっしょに食文化について発表することが楽しかったです。
 スウェーデンのパンは初めて見ました。アメリカのハンバーガーもおいしいです。
 外国語には、慣れ親しみ（ほしたり聞いたり）しましたか？
 (Excellent) Good! Clear! Try again!
 食文化についての気づきは、ありましたか？
 食文化は、国によって違うことがわかりました。料理は、文化によって違うことがわかりました。食文化は、国によって違うことがわかりました。食文化は、国によって違うことがわかりました。

【本時のワークシート】